

## 第10回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2025年1月21日(火) 19時~21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 40名
- ◇内容 学習指導案の相互検討③

【ルーム1】ファシリテーター：島俊彦（福岡市立七隈小学校）

### 1) 木幡美幸さん（社会科教育専修3回生）

中学校1年 総合的な学習の時間「みんなにやさしい防災って何だろう」

- ・生駒市の防災意識の低さに対する危機感から実践を構想。
- ・実践を通して、助けられる側から助ける側へと中学生が変容することを期待している。・未災地である生駒だからこそ実施可能な防災教育を展開したい。

#### 意見交流から

- ・東日本大震災の事例から導入して、どのように生駒での実践に繋げるのか？  
→陸前高田や気仙沼を訪れた経験から、東日本大震災を扱いたいと思った。被災地の震災前の状況と、現在の生駒市の共通点を見出させたい。
- ・市民への調査では、世代や立場によって回答や困り感が異なるのでは？  
→高齢者や子育て世代などを想定している。
- ・地震に付随して起こり得るリスクへの対処は？  
→地震に焦点化していたが、地滑りなどもある。
- ・生駒市で発生した過去の災害は？  
→石碑などから過去の震災を辿っても良い。
- ・単元末は、市役所職員へのプレゼンで良いのか？  
→地域への発信など、実際的な行動までも求めていきたい。

### 2) 田中愛花さん（国語教育専修3回生）小学校6年 総合的な学習の時間

「地域の人に癒しをどうぞ～奈良で生まれた茶の湯（茶道）を通して～」

- ・郷土学習の中で、地域貢献活動を展開したい。想定は教育大周辺地域の小学校。
- ・茶の湯の心である「和敬清寂」の精神性を児童に育みたい。

#### 意見交流から

- ・実践のゴールや、授業者の願いは？  
→「和敬清寂」の精神性を味わってほしい。この言葉を、どのタイミングで児童と出合わせるかが重要。「和敬清寂」については、道徳でじっくり扱うことも良いのではないか。
- ・社会科で室町文化を学んだ後に行う実践なのか？ →そのつもりである。（カリマネの意識）
- ・現代人の癒しは、お茶じゃないのでは？  
→お茶が人々に与える安らぎを、文化継承の視点から追究する展開も考えられる。
- ・現代人の疲れの原因や、その疲れに対して、お茶にはどのような効果が期待できるか。  
→お茶を飲んだ人の心がホッとするようなアプローチを考えたい。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

### 1) 才田優佳さん（特別支援教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「過去と未来をつなぐ 武庫川

【単元展開の概要】

- ①武庫川について知っていることの共有
- ②写真資料を基に昔の武庫川について知る
- ③武庫川を守るための昔の人の苦労や思いを想像する。
- ④昔の武庫川について地域の方々にインタビューする 年表づくり
- ⑤昔の人々が武庫川を守ったように、日常生活を支えてくれている人に感謝し行動化する。

意見交流から

・現在の武庫川の良さは何だろう？

市民の憩いの場、サイクリングロード、ハイキングコース

すべての児童が関わった経験がある武庫川を教材化するのは、学習意欲を高めることになると思われる。

- ・時間軸を入れることで、目の前の武庫川の姿が「当たり前ではない」ことに気づかせているので、「育てたい資質・能力」にクリティカル・シンキングを追加したほうがいい。
- ・当たり前の生活を見直し、「当たり前でない」ことに気づかせるのはいい。この単元の展開だと、普通、「武庫川を守るために自分たちができることを考え実行する」という展開になる。しかし、この学習では生活全体が「当たり前でない」ことに気づくことから、活動範囲を広くしているのが面白い。

### 2) 高司靖信先生（天理市立福住小中学校） 中学校3年 数学科「相似」

【学習展開の概要】

- ①相似の意味理解、三角形の相似条件、相似な三角形mp照明を行う
- ②三角形と比の定理、平行線と線分の比の定理、中点連結定理、角の二等分線、三角形の面積比
- ③相似な図形の面積比、相似な立体の表面積比、体積比
- ④世界の建造物の比 作図

意見交流から

- ・写真だけでは相似であるかどうか判断できないのではないか。
- ・タブレットを使用しても、世界の建造物から相似な図形を見つけるのは困難だろう。いくつか教員の方で用意し、選択させる方がいいたろう。
- ・古墳なら、測量図があるので、取り組みやすいのではないか。

### 3) 神吉優利奈さん（特別支援教育専修3回生） 小学校6年 総合的な学習の時間

「かき氷の秘密を探れーなぜ奈良県でかき氷を売る店が増えているのか？ー」

【単元展開の概要】

- ①奈良県でかき氷を売る店が増えていることについて、知っていることを話し合う。
- ②東向商店街をフィールドワーク。
- ③資料で調べる。
- ④かき氷に関わっている人の話を聞く。 氷室神社・大宮守人さん

ひむろしらゆき祭にボランティアで関わっている人

⑤これまでの学習を振り返り、自分たちが地域を盛り上げるためにできることを考える。

#### 意見交流から

- ・ひむろしらゆき祭は2014年に始まった新しい祭り。なぜ始めたのか？その理由を考えることで、ウェルビーイングの社会実装について学ぶことができる。
- ・奈良のかき氷の氷は、家庭で作る氷とは違う。かき氷店に氷を提供している工場を見学したり、インタビューしたりするのもいいだろう。
- ・「自分が奈良県に訪れる観光客なら食べたいと思うかき氷を提案する」のではなく、観光客に奈良の良さを知ってもらおうという目的で、新しいかき氷を考える。

【ルーム3】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

#### 1) 福田実莉さん（伝統文化教育・国際理解教育専修1年）

高等学校1年 芸術・総合的な探究の時間「手書き文化について考えよう」

書道に触れる人口が年々減少 墨・筆産業の衰退

手書きと印刷の年賀状の比較 在日外国人書道学習から見た書道への評価（GT）

墨工場、筆工場への見学、聞き取り

「〇〇へ、感謝」筆と墨で表現させる 手書き文化継承のために自分たちにできることは？

#### 意見交流から

- ・学校教育における書道教育の課題とは？  
→小学校では書写としてやっているものの、中学校ではほとんど行われていない。
- ・なぜ外国人に出会わせるのか？  
→外国人から見る書道は、使用する道具なども含め賞賛されている。書道そのものの価値を感じさせたい。
- ・そうであれば、最後は継承も大事だが、書道文化や手書き文化のよさを発信させたい。
- ・手書き文化がなくなれば、墨や筆というものもなくなり、職人さんもいなくなるという事の重大さを感じさせたい。

#### 2) 太田遥さん（伝統文化教育・国際理解教育専修1年） 中学校2年 国語「方言と共通語」

方言ラジオ体操（アイヌ語、琉球弁、関西弁）を聞く 何を言っているのか分からない

方言について調べる 考える（大和弁を例に）

共通語とTPOに合わせて使い分けることの大切さ

方言がなくなりつつある現状をどう考えるか

「ありがとう」を例に地域によってどう違うか、日本地図に表し「ありがとうパズル」作成

#### 意見交流から

- ・アイヌ語は方言ではなく、違う言語として捉えるべきではないか。津軽弁でどうか。
- ・同じ県でも地域によって結構違う。かなり細かく分かれているのではないだろうか。
- ・最終的に子どもたちの方言に対する思いはなることを考えているのか？  
→「守る」ではなく、「大切にすることや、共通語も大事だということを感じさせたい。
- ・方言を使う人の暮らしに迫ることが大事なのではないか。GTでお話を聞くことも大事。
- ・自分をありのままに表現できるのが方言だから、そんなところが文化と関わってくると思う。

### 3) 犬塚良子先生（天理市立福住小中学校）

中学校1～3年 総合的な学習の時間「ヤマトサンショウウオも人も住みやすい里山保全をめざして」

2年前に生物部が絶滅寸前のヤマトサンショウウオを発見したことから取組が始まる

「福住学」ヤマトサンショウウオが住みやすい環境は人も住みやすいことに気付かせたい

そのために必要なことから5つのグループに分かれて取組を進める

（トラップ調査、炭づくり、堆肥、木工、植樹） さらに分かれて各班4人

それぞれに専門の講師を呼んで協力してもらいながら進めている

#### 意見交流から

- ・なかなかうまくいかないことが多いということだが、それが大事だと思う。試行錯誤しながら手作りでやっているのがいい。
- ・最後の活動が発信だけではもったいない。  
→ 学校間交流（同じように里山保全に取り組む学校は多い）、学校HPの工夫
- ・発信するにしても、それに対するフィードバックが重要で、その機会があるかないかで学びの深まりが違ってくると思う。

【ルーム4】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

### 1) 澤井咲樹さん（英語教育専修3回生） 中学校3年 総合的な学習の時間「Lively GOJO City！」

五條市の状況や魅力を理解し、活性化させるためのビジネスプランを考えさせる授業を発表した。英語科の「Lively town in Japan」という単元に上勝町で行われた活性化の事例が載っており、その学習と関連させる教科横断的な取組を構想した。柿や柿の葉寿司といった特産品や、消滅可能性都市に位置付けられていることを題材にして、活性化についての課題意識を持たせようとした。

子どもの様子がよくイメージできており、現実味のある指導案になっている。子ども達に魅力をたくさん出させることがその後の授業展開に大きな影響を与えると思われる。

作成者が懸念していることとして、子ども達に調べるテーマを選ばせると、人数の偏りが生まれてしまい、グループ学習がしづらくなるのではないかとすることがあるが、「授業者がテーマを絞ってしまうと学習のまとめの段階で偏りが生まれてしまう可能性がある」「子ども達が自分で選んでいくことが大切ではないか」という意見が出された。現職の先生のご意見として、「それまでの授業の中で子どもがどこに興味を持つかが見えてくるので、あまり心配しなくても大丈夫」との助言もあった。

### 2) 無量井夏音さん（国語教育専修3回生）

小学校6年 総合的な学習の時間「世界平和を目指す6-1サミット」

平和学習の授業実践として、修学旅行の事後学習において、身近な平和の大切さを考える授業を構想した。動画「もし『桃太郎』の主人公が鬼だったら」を視聴し、見方が変わると考え方が変わるということに気づかせ、「戦争をなくすにはどうすればよいか」という問いに向き合わせたいと考えている。この問いは、非常に難しい問いであるが、友達と一緒に考えあうことで、対話の重要性や様々な見方に気づくことの大切さに気づかせていきたい。

過去の戦争についてのイメージがどんどん子ども達の中でうすくなっていつてしまっている状況がある中で、重要な学修だという感想が多く出された。一方で、平和学習を実践することの難しさも、特に現職の先生方は感じておられ、どのように子ども達が考えられる問いにしていこうかという点について意見が出された。他教科（道徳や社会科など）でも関連する学習は多くあるので、うまく関連さ

せながら、また過去の戦争だけでなく国際理解や人権とも関連付けながら学ばせるとよい、という助言があった。

### 3) 澤田悠先生（奈良市立三碓小学校）

#### 小学校3年 総合的な学習の時間「奈良県の伝統工芸品『奈良墨』」

なぜ奈良墨がながく受け継がれてきたのだろう、という問いを主として、授業を設計した。子ども達にとって、授業でも墨は使うが磨るのがめんどくさい、液体墨の方が楽、という印象を持っていることが多い。その子供の感覚を生かして、「なぜ楽なのに固形墨が使われている理由は何か」を探究させていく。墨の魅力に気付かせるために、墨を使ったお香をたいたり、ゲストティーチャーに出会わせたり、クイズや動画などを用いるなどして、様々な出会い方を設定している。また最後には、墨以外にも、様々な伝統文化を調べる授業にしていきたい。

子どもの素直な感覚（めんどくさい）を生かすことが、墨の魅力に気付かせるための布石としてとても効果的だと思われる。見つけ出した魅力については、4年生が「奈良県の特色ある地域」の学習をしているので、紹介させるなどして発表の機会を作るのもよいのではないかとの意見が出た。

調べ学習については、子ども達に自由に調べさせると、難しい言葉が多く、WEB上の言葉をコピーしていく作業で終わってしまうことが話題となった。子どもの経験知を生かすような調べ方をさせること、または墨で学んだことをカテゴリー化して、それを生かして他の伝統文化に目を向けるような手立てを講じると、視点を明確にして調べられるのではないかとの意見があった。

【ルーム5】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

### 1) 前田扶美先生（熊本県菊池市立旭志中学校）

#### 中学校3年 英語科「Be Prepared and Work Together」

- ・新しく赴任したALTの先生に対して旭志中学校の避難所計画について外国人支援や子ども支援、高齢者支援のことを配慮しながら情報を整理し、伝える生徒（単元のゴール）
- ・校内の芝生広場を避難所にしよう
- ・校内にいる防災士の先生の話聞いて防災の視点を学ぶ
- ・調べる段階から意欲的に取り組んでいる様子だった。
- ・自分たちで実際に現地に行き活動している様子が見られたことから自分事になっているような感じだった。

#### 意見交流から

- ・子どもが活動の中で困っていたところは？
  - 防災という幅広い分野でどれを伝えるか選ぶことに苦戦していたので、ALTの先生に直接聞くようにした。
  - 「優しい日本語」を取り入れたことは生徒も伝えやすかったと思う。
- ・翻訳アプリなどは利用した？
  - 本当に伝えたいことかどうか確認させてから利用させるようにした。基礎の大切さも感じた。
- ・自分たちにとって身近な人に伝えたいことを伝えることができたことは、生徒にとっても生後の実用性を感じる。
- ・今までの積み上げがあって、生徒が今まで習った英語を使って伝えようとしていた。
- ・パンフレットなどを作成して市役所などに置くとしたら、という視点でもう一度自分たちで作った英

語を振り返ることができる。

## 2) 福原望愛さん(美術教育専修3回生) 中学校2年 総合的な学習の時間「飛鳥川セイバー」

- ・飛鳥川を清掃している構成メンバーの高齢化が問題。若い世代の参加を求めている。
- ・川の清掃などに積極的に参加できない児童に対してどのように働きかけるか。
- ・1月にゴミ袋2～3袋のごみが出る。
- ・地域の川じゃないので、意欲が出にくいのではないか。
- ・活動に参加した生徒と、していない生徒がいるのはどうだろうか。
- ・任意で参加させるのではなく、体験的な活動を入れることでより生徒は自分事として学習に取り組むのではないか。

## 3) 八尾有紗さん(書道教育専修3回生)

### 小学校6年 総合的な学習の時間「わたしたちの『ますづかみそ』！」

- ・昭和3年に創業した野田味噌商店の教材化 伝統的な作り方でできた「柘塚味噌」
- ・自分たちの生活にあるものをもう一度見直す良い実践だと思う。
- ・味噌が食べたくなる授業。
- ・総合だけでなく、いろいろな教科と関連付けながら進めることができる教材。
- ・フィードバックをもらうことも自分たちの行動を見返すことができる。
- ・身近にあるからこそ、児童がこだわりを感じて、地域、未来の人に残していきたいというような発言が出てきたら嬉しい。

【ルーム6】ファシリテーター：中村友弥(奈良市立朱雀小学校)

## 1) 吉岡優来さん(国語教育専修3回生) 小学校4年 総合的な学習の時間「地域と災害」

- ・国語科・社会科で防災を学ぶ → 総合へつなげる
- ・ハザードマップを教材として扱う。○○町ハザードマップを自作する
- ・現在のハザードマップでは、不十分なのではないか？避難できるのだろうか？
- ・鴨川が氾濫する危険性 歴史から考える。
- ・自作のハザードマップは、どのような視点でつくったらよいのか？  
どのように広めることができるのか？
- ・京都市の過去に起きた自然災害について知る
- ・京都市南区の災害について調べる
- ・「まるごとまちごとハザードマップ」について知る
- ・市役所の方に話を聞くなど、情報を集め、自作のハザードマップに追加する
- ・自作のハザードマップを発表する

### 意見交流から

- ・鴨川が、環境・景観の保全、生態調査など様々な切り口から取り組める教材である。  
災害の視点だけでなく、総合を軸にして学校全体で取り組むことができる。
- ・導入で視覚に訴える内容があってもいいかもしれない。
- ・まずは、4年生自身が分かりやすい自作のハザードマップになればよいと思う。
- ・映像を見るときは、話し合い活動等主体的に取り組むための工夫とセットで行うと良い。

- ・自分ならこのように逃げると宣言を書きこんだふりかえりも良い。

## 2) 前田佳代先生(天理市立福住小中学校)

### 中学校1年 家庭科「私たちの住まい～古民家再生を通して探る、地域の魅力」

- ・目標 古民家の歴史、伝統を重んじつつ地域の魅力につながるような再生を目指す
- ・住居の機能的な大切さを学んだ上で取り組む
- ・持続可能な住まいのあり方を問いたい
- ・福住の現状を把握し、課題を共有する
- ・古民家マップを作成する
- ・なぜ古民家を再生するの？
- ・移住してきた人の話を聞く
- ・古民家再生のアイデアを考え、伝える

#### 意見交流から

- ・都祁に住んでいる私は人口減少を切に感じる。福住は、氷まつりを活用できる。
- ・増築した部分の方が、先に朽ちてしまうぐらい、昔の技術はすごい。
- ・福住だからこそその古民家の凄さや魅力を掘り出したい。
- ・京都市も空き家問題、所有者が亡くなって管理問題がある。古民家をリノベーションして居住以外で活用する方法も良い。
- ・福住の地域を見つめなおし、各教科の視点から新しい価値や学びを創造しているすばらしい取り組みのひとつになるので、実現させてほしい。コミュニティでの共生が課題。
- ・福住を、移住者を含めてポジティブにとらえている生徒たちがすばらしい。その価値観を高めて開かれた福住につながってほしい。(古民家や空き家を活用しにくいネガティブな意見に対して)

## 3) 東瑞さん(美術教育専修3回生) 小学校5年 総合的な学習の時間「奈良のお宝・春日山原始林」

- ・春日山原始林が抱える3つ課題 奈良のシカの問題 外来種の問題 ナラ枯れの問題
- ・次世代の木々が育たない 育つのは、外来種のナンキンハゼやナギ。
- ・春日山原始林を未来へつなぐ会との出会い
- ・発信は、保全と原始林の明るい未来を願いながら俳句をつくり、吟ずる。
  - みつめる 視覚に訴える教材を活用
  - しらべる 現地学習 未来へつなぐ会の方と出会う
  - ふかめる 俳句づくり 吟ずる
  - ひろげる 参観や地域の人に発信する

#### 意見交流から

- ・吟詠や詩吟は、指導者の個性を生かした強みがある。
- ・俳句は、年配の方の心にささる可能性大。
- ・原始林を知らない児童への配慮が良い。
- ・5年生の国語科で固有種の話があり、からめることができる。
- ・原始林と児童をつなぐための工夫が大切。
- ・ナンキンハゼを活用する取り組みもあるので、つながることができるのではないかな。